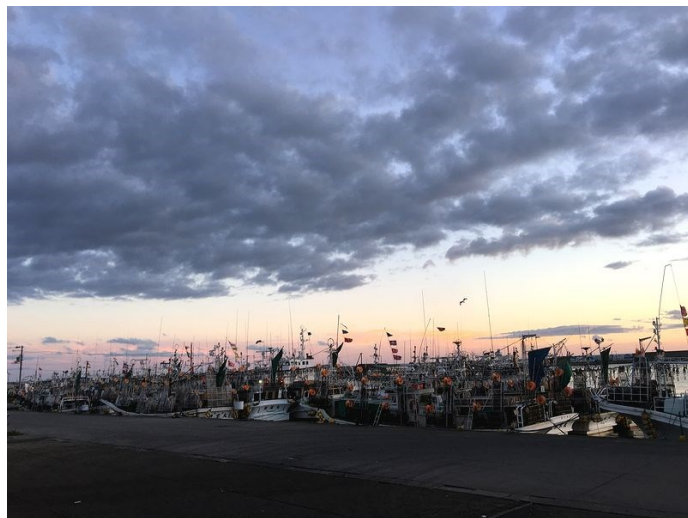


マルセイニュース 9月号

発行日 2016/9/22

株式会社 マルセイ
浦河町東町うしお1丁目
〒057-0005 Tel.0146-22-5123



豊漁、豊作の秋になりますように！



「イカいない？」この言葉が今年は聞かれません。そう、今年の夏イカ漁は何だか活気を感じられないままに秋を迎えました。多い時には100隻を超えるイカ船が入港して賑わう浦河港。9月16日現在、75隻が最高で、多い時には一万箱を超える水揚げも今年は7,500箱が最高です。それでも今年は卸値が高いこともあり、漁師さんにとっては意外と良い漁具合なのとか。でもその一方で、イカ釣り漁船に氷を売る漁業組合や燃料を供給する業者の売り上げは低調とのこと。イカ積みのお手伝いをする“おかまわり”さんにとっても厳しい年ようです。鮭の定置網漁はこれからが本格シーズン。どうか、豊漁でありますように！



「浦河駅の風景」～こんな時代がありました



昭和39年4月？



昭和34年

大規模に埋め立てられる前、浦河駅の南側は海でした。風がよほど強かったのでしょうか。「シベリア街道」と呼ばれていたそうです。道路が整い車が普及した現在の状況しか知らない人には驚きの光景でしょうか。「鉄道」が交通の手段として最も輝いていた頃の浦河駅の写真です。春の移動で札幌方面に向かう汽車を見送っている光景かもしれません。昭和39年頃の浦河町の人口は、2万1千人ほどでした。



写真協力 浦河町博物館



8月、社長宅で皆と会食した須田さん親子

「目標を決めて」から「計画を立てて経営する」 2016年「社長の経営合宿」終了！

毎年恒例の経営合宿に出かけてきました。今年で14回目となります。経営コンサルタントの須田知身さんと二人の合宿です。先月号で、自転車では北海道をまわった親子のことをご紹介しましたね。その方です。

月次決算を 続けてきた結果

当社では会計ソフトを使って経理を行っています。試算表から出力された数字をエクセル(計算ソフト)に打ち込んでいきます。部門別売上・粗利・仕入れ・商品数量なども記録していて、約400の項目のデータが、14年分蓄積されています。合宿に出かける前に、「この数字、以前と較べるとずいぶん良くなったなあ」とばわふると確認した項目がありました。

初日、「じゃあ、ざっと数字を見ておこうか」とエクセル表をながめていたコンサルタント氏ですが、めざとく当該項目を発見。「この数字良くなったねえ」と呟きました。さすがプロだなあ、と感心しました。

指針を持つということです。もちろん会社は毎日毎日やるべき業務がありますから、指針が無くともその日困ることはありません。けれども長い時間で見るとやっぱり良い会社や続いている会社というのは、「心得」とか「社訓」に感心するものが多く、それを具体的に努力していると思います。一方、そういう「思い」のある事業をする会社がつぶれないためには、経営の「技」も必要です。商品・資金繰り・営業力・人間関係などどれも疎かにできませんので、日々勉強していく必要があります。わたしは自分の社長としての力量を高く見積もっていなかったの、プロのアドバイザーを頼んでやってきました。今までも何度かお伝えしていますが、わたしにとつては、これは大正解だったと思っています。財務の事ひとつをとつても、私自身の力ではここまで改善することはできなかったと思います。

共感できる経営者の 宿に連泊しながら

今回は、十勝の糠平町にある温泉宿『中村屋』さんでの三泊四日の経営合宿でし

た。昼食抜きで、朝ご飯を食べたら夕方までずっと打ち合わせです。大半をこの宿の中で過ごしました。しかしこの宿が素敵なのと、まったく退屈しませんでした。至る所に遊び心があり、こちらの気分もリラックスしてくんです。ロビーに流れる音楽の選曲も心憎いほどで、ここでの休憩時間はよく寛げました。



ずいぶん前に団体客から個人の泊まり客へとシフトして、資金が苦しい中を工夫に工夫を重ねて魅力ある宿を目指してきたそうです。部屋にあってリーフレットにこれまでの足取りが書いてありました。それを読んでコンサルタント氏とふたりで話すことになりました。ここにも一人、自分の商いに真剣に取り組んできた経営者がいらつしたからです。今年とりわけ良い合宿が出来たと感じた4日間でした。

社長

今年こそ！ お客様の中から「特賞」当選者を！

今年も、年に一度のLPガスキャンペーンが始まります。当選率の高いこのキャンペーンですが、昨年は当社のお客様の中から3名が当選！その中のお二人が、3度目の当選だった方と、2年連続当選という方でした。すごい！さあ、今年はあなたも！まずは、ご応募ですよ！



いっつもそばに Lpガス

2016 感謝のプレゼント キャンペーン実施中!

日頃のご愛顧に感謝を込めて、総勢2,150名様に当たるプレゼントキャンペーン! 応募してください!!

特賞 がんばれ!お母さん。LPガスでやりくりしま賞

A賞 選べる日本の味。LPガスでうまいで賞

B賞 おいしい道産米をみんなで食べま賞

●現金1万円を50名様 ●郵便局ふるさと小包 5,000円分 100名様 ●お米券 2,000名様



マルセイのタンクローリー「ほのぼの号」
よろしくお願いします！

残量を気にしなくても安心な冬を過ごせます。

「灯油定期配送」をご利用ください！

当社が新しくしたタンクローリー「ほのぼの号」を迎えてから、早くも1年が過ぎました。海岸沿いで潮風が吹く場所にあるマルセイですが、まだ車体はまっ白。大切に乘っています。この冬の灯油配送は、マルセイの灯油定期配送をご利用ください。「ほのぼの号」に乗ってお客様のお宅へ伺います！

「ほのぼの号」で
配送に伺います！

灯油をタンクに給油している
ブタくん。もう一方の手には一
輪の花を持ち、その先には虹が
広がるデザインが描かれている
「ほのぼの号」を迎えてから、
あつという間に1年が過ぎまし
た。「また、子どもたちに指さ
されるんじゃないか？」と心配
をしていたのは配送担当の前任
者だった寺さんでした。で
も、大丈夫でした。笑
今年は新しいステッカーを用意
しようかな？と検討していま
す。お楽しみに！

「もう値上がりしてます
か？」とお問い合わせが入るよ
うになりましたが、そろそろ灯
油の価格が気になる時期にな
りましたね。この冬はどんな冬
になるでしょう。安定価格で提
供できるというのが、これ
ばかりは全く予想がつかない近
年の国際状況です。

さて、この冬からの灯油配送
は、残量チェックなどの必要もな
い「定期配送」をご利用くださ
い。お客様のお宅の使用状況を
把握して配送管理をさせていた
だきます。もちろん、必要なと
きの電話注文もお受けしていま
す。お気軽にご相談ください。



不具合はありませんでしたか？

「そろそろ必要かな？」と感じた時が 《分解整備》をするタイミングです！

使用しているストーブの不具合を実感されていたなら・・・
深刻な状態になってしまう前に、整備を済ませておきたいものです。
冬がやってくる前にご相談ください。



雪が降る前に・・・“家庭ごみ”の片付けを！

「いつからのゴミだろうね
。何十年モノだよ。みなさ
んの力を借りて片付けること
ができて、本当に良かったよ」
暮らしのサポート事業でう
れしいのは、お客様が本当に
喜んでくださることです。お
客様と一緒に片付けをする
こともありすが、そんな時
はなおのことです。肩の荷が
降りるのでしょいか、気になっ
ていたモノが目に見えて片付
いていくと安心されていく様
子が伝わってきます。

解体する物置の中を空っぽ
にするお手伝いをさせていた
だきました。マルキョウさん、
たぐち呉服店さん。：。段ボ
ールの中からは懐かしい包装紙
で丁寧に包まれた食器がたく
さん出てきました。「今の時
代は、もう必要なくなつたよ
ね。」と客用布団を処分する
方も増えていますが、納戸や
物置にしまわれている客用食
器も同じでしょうか。残して
おいても後の人に迷惑をかけ
るだけだから。そう決心され
て処分の依頼をいただくこと
も少なくありません。

お盆に帰省した息子さんが
伐採して帰った枝木の処分。
そのついでに、他の使っていない
モノと一緒に捨てて欲しいとい
う依頼もありました。
私たちが可能なご家庭の片
付け仕事のご相談は、雪が降
る前にどうぞ。



物置の中から、重いモノの運び出しをする社長と分別作業をしているマックス



庭の手入れをした後の、枝木を捨てる仕事もしています



ルールを守って分別します



月に一度のこの日を 楽しみに待っている人がいます

『浦河老人と共に歩む会』が続ける『愛の会』

毎月第3土曜日(10:00~14:30) 会場:社会福祉会館



8月20日の『愛の会』にお邪魔させていただきました。15年目に入り、この日で第178回。月に一度、全くのボランティアで運営され一度も休むことなく開催されているこの会を、どれほど楽しみに待っているかしら。る方がいることでしょう。『愛の会』は「介護する人」と「介護される人」ではなく、感謝と喜びを共有する人たちが集い、互いに寄り添いながら大切にこのひとときを過ごしている場でした。会場の随所に飾られて



会話をする喜び
人が寄り添うあたたかい場所があります

れているのが昼食です。この日のメニューは、持ち込まれた自家製野菜もたっぷりの夏野菜のカレーとインゲン、胡麻和えと野菜サラダ。どれもボリュームたっぷりでしたが、ご高齢のみなさんがきれいに召し上がっていたのに驚きま



おいしい食事を一緒に食べる

いるお花はボランティアさん宅のお庭から。帰りには希望される方の手に渡され、持ち帰られます。細やかな心遣いは花瓶代わりのペットボトルにも。色とりどりのビー玉が入れられて、きれいで涼し気でした。みなさんが楽しみにさ



く美味しいお料理でした！「月に一度だからできるのよ」と、4名の調理担当の方々ははじめ、ボランティアのみなさんがさりとおっしゃっていました。いえいえ休むことなく続けることの大変さと思うと本当に頭が下がります。昼食後のゲームは新聞紙一枚をできるだけ長くテープ状に手で裂いて、その長さを競うもの。それぞれのテーブルごと、新聞紙一枚に寄せられているだけで、とても温かい気持ちになりました。とにかく終始いっぱい笑顔が溢れていました。こうして毎月楽しみに待たれている『愛の会』が、どうか、これからも継続される優しい浦河町でありますように。

マックス

リアン、およそ7年ぶりに浦河へ！



ボーイフレンドのジャックさん(24才)と一緒に来日。浦河からスタートした3週間の旅は、東京、大阪、京都、広島へ向かう予定とのことでした。ホストファミリーだった山岸昌昭・早百合さんご夫妻のお宅の懐かしい自分の部屋で3泊4日の浦河滞在。牧場で乗馬を楽しみ、アポイではジオパークを見学、えりも岬へのドライブも楽しみました。

7年前、オーストラリアから浦河高校に留学していたリアンが遊びに来たと聞いて会いに行ってみました。「浦河はわたしの町。私の家族に会いに、また来ます！」と言って、帰国した時16才だったリアンも22才。大人の女性になっていました。時間の過ぎるのは本当に早いですね。

「まずは、トライ！」 そして今も、トライ！」

今はアルバイトをしながら、弁護士を目指して法律の勉強をしている大学生です。12才の時に日本の文化に興味を持ち、日本に留学しようとした。自分で調べたり勉強を続けながら、15才でチャンスをつかみ、浦河で1年間の留学生生活を体験しました。2010年、帰国直前のリアンにインタビューをさせてもらいました。「トライ」、「トライ」...。その時に彼女の口から何度も聞いたのが、この「トライ(試す)」とい



う言葉でした。このとき16才の少女の行動力と自立した精神に驚かされましたが、同時に、失敗の経験を積み重ねることが大切になされていること、安心して失敗する機会に恵まれて育つ教育環境と社会がオーストラリアには普通にあることも知りま

た。
当時、「トライしよう」としないう。周りを気にしがち。子どもっぽくて大人になりたくないう。など

と彼女が感じた高校生の印象は、そっくり私たち日本人の大人にも言えることだと思つたものでしたが、今も同じでしょうか。「また来ます！」そして、「私の結婚式の時には、オーストラリアにも来てくれる？」と、浦河のお母さんをお誘いしていた様子がとても微笑ましかったです。

マックス



マルセイのすぐ横の線路

J R 問題学習講演会

『鉄道廃止で過疎が進む』

～ふるさと銀河線の事例から～ 講師 中川 功さん

8月27日(土) 新ひだか町公民館 14:00～16:00

主催: JR日高線を守る会 後援: 日高町村会・日高町村議会



浦高美術部の作品が飾られている浦河駅

来場者は140名！
日高線存続への関心の高さを実感！

新ひだか町で開かれた講演会に行ってきました。主催はJR日高線を守る会です。新聞等でも報道されていましたが、会場にはたくさんの方が来ていました。

酒井新ひだか町長が開会であいさつをされましたが、各町の議員さんたちの顔も見え、日高線存続への関心の高さがうかがえました。講師の中川功さんは、

日高線はもうダメなんて
簡単にあきらめるべきものではない



まず、わたしの方から「地域」としては財政支援は困難」と絶対に

言つてはいけなさと話されました。この言葉を言つてしまうと、JRとしてはすぐに廃止手続きに入ることが出来ると思います。ではどうすれば良いのでしょうか。地元としても財政支援の考えはありません、JRだけに負担を負わせるつもりではないことを伝え、「交渉のテーブルに着かせる」ことがまず肝要だと中川さんは言います。そのうえで、利用者である私たちと民間企業であるJR北海道とが協力して、収

ふるさと銀河線応援ネットワークの副代表として鉄道の存続のために戦ってきた方です。元留辺蘂町の収入役ということもあり、存続のための提案は数字の裏付けに元々説得力のあるものでした。日高線はもうダメだなんて簡単にあきらめるべきものじゃない、との思いを強くした中川さんのお話でした。

支を改善する案を話してくれました。その中の一部をご紹介します。

① JR貨物に適正な「線路使用料」を払ってもらう

8月1日付けの北海道新聞によれば、JR貨物には設立当初から軽減措置がとられていて、例えば線路維持の検査や除雪の費用はすべて旅客側の会社が負担しています。JR北海道の赤字は実質年間175億円ですが、JR貨物が支払うべき適正な線路使用料は約百億円と見込まれています。これだけで、赤字の半分が解決します。残りの赤字半分为道が負担する。ここは選出した議員さんたちに大いに活躍してもらうところです。

② 『ふるさと納税』の使い道を、日高線存続1本にしばる

残っている、全体の赤字の4分の1を地元側で負担するとして、例えばふるさと納税を利用することです。これは住民の合意形成ができれば財政的にはかなり有効な策といえます。中川さんが提案したのはふるさと納税活用だけではありません。詳細を記す余裕がありませんが、海外の取り組みも紹介しつつ、住民の自治によるお金を生み出す工夫で、この負担分をまかなうことは可能だと語られました。

③ 地元への負担分の積算根拠を求める

日高線沿線市町村には約16億円の負担が求められています。この詳細な内訳を求めることです。決してJR側だけに無理を言うわけではなく、地元側も血税を投入するのだから、要求された負担額については、徹底的に分析検討させてもらうことが大事だといいます。講師の中川さんのお話は、ここにまとめたよりもはるかに緻密だったのですが、わたしのメモによるとこのような内容でした。

そもそもJR北海道には経営安定化基金があり、そこから年間500億円の金利収入がありました。これが失われたことがJR北海道赤字の大きな理由なんです。

という講師のお話で、日高や後志や根室の人口減が赤字の主たる原因ではない！と教えてもらったようで、なんだか気持ちが軽くなりました。

人口減だけが
赤字の原因ではない

講師の中川功さんは、「ふるさと銀河線の反省から日高線蘇り策を考える」という演題で経験に基づいたお話をして下さいました。鉄道という公共財を残すために、より活用する知恵をみんなで見出していきたいと思います。この日の講演会をボランティアで準備した主催者の方々にも敬意を表したいと思います。わたしたち一人一人の協働によってしか、地域の未来は開かれていかないと考えさせられた会でした。

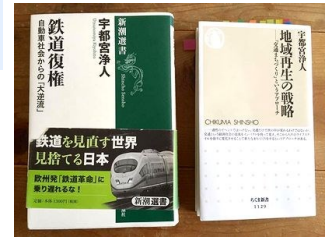
社長



東町の駅に類似方面からやってきた、かっこいいファイターズ号。荻伏駅まで乗りました。7年前の写真ですが、携帯で写真を撮っている後姿は、ばわふるさんです。



最近読んだ
本の中より…



『地域再生の戦略 —「交通まちづくり」というアプローチ』

うつのみや きよひと

宇都宮 浄人 著 (1960～) ちくま新書

急激な高齢化という時代の大きな変化の中で、既にあちこちでほころびが生じている。山間の村落だけでなく、県庁所在地でも中心市街地を含むいわゆる旧市街地からスーパーがなくなり、自家用車を運転できない「買い物難民」が現実となっている。公共交通での移動が出来なくなると、医者にも行けない。(本文より)

「移動のための手段」とは

著者の宇都宮浄人さんは、『鉄道復権』『路面電車ルネッサンス』という本も書いている、公共交通からまちづくりを考えることの第一人者です。じつはわたし、面白そうだったので先に『鉄道復権』を古本で買いました。読まないでいるうちに、本書を六畳書房から入手してこちらを先に読んでみたというわけです。この本、200ページ足らずではあるのですが、各種のグラフデータも含めて情報が豊富でした。元々この種の公共交通についての本を読んだことがないこともあり、もう一度くらいは通読しないとここで紹介できるほど理解はしていません。そんな言い訳をしつつ、明日へ切りのニュース原稿を書いているところです。

その上でなのですが、わたしは次のような感想を持ちました。日本は進みつつある高齢化や人口減少、あるいは20年近く前から始まった労働人口の減少と反比例してリタイア層の増大という、高度成長期とはまったくちがう社会にすでに突入しています。そのため、暮らしやすくするための

施策が今までと真逆になることもしばしばあるはずですが、そういう視点から「移動のための手段」を見たとき、役目を終えたと思えなされがちの鉄路・路面電車・乗り合いバスなどを活かしていくことこそが未来への道だと、著者は述べていると思います。



高齢者社会を予測して早くから手を打っているヨーロッパ各国

日本と同じ成熟社会であるヨーロッパ各国は、人口構成の変化を予測し鉄路や電車を見直して早くから手を打ってきています。本書に実例が引かれていますが、自動車王国であるドイツでさえ鉄路や路面電車の利用者は増加しているそうです。考えてみれば、不思議なことではありません。若者の数は減少していて、さらに「クルマで遠出は億劫だ」「そろそろ免許を返納しようか」と考える高齢者が増えているのですから、自動車の利用率が下がるのは自然だとも言えます。先進国と呼ばれる国に共通のことだと思うのですが、

「上限200円」で路線バスの利用者が2倍以上になった小さな町の取り組み

著者は水戸市出身ですが、久しぶりに帰省したときの、駅前の道路の「圧倒的な存在感」と、人のいない中心市街地の印象は強烈だったといえます。もちろん水戸市もその後さまざまな施策を進めていることが、記されています。

興味をひいたのは京丹後市という、小さなマチの取り組みです。ここは路線バス運賃が「上限200円」です。いままで千円以上のところも200円にしました。結果、利用者は2倍以上になり行政の補助金は1800万円減少しました。人口の少ないところですから、課題はまだあるそうです。けれどこの事例は、自分たちの地域に合った施策を自分たちで決めるといって「自治」を、今まで以上に大事にすることが、地域の活力を生み出していくことを実証していると思います。本書を読んでそんな感想を抱きました。

社長



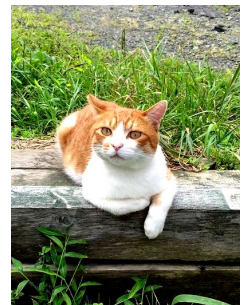
疲れたときには、こんな仲間がいるといいね



マックス

夕食後にぼんやりしていた社長が、こんな一言。「あー、仔犬触りたいなあ。あのぷっくりと膨れた腹とかさ」。どうやら少し疲れている様子。うんうん。その感じ、わかる。

私はといえば、マルセイニースのポステイニング中に会った野良猫、毎年夏になると大切に育てられる、キリギリスおじさんの家のキリギリスの鳴き声、夏祭りの後に私に託された金魚の「金太」、そんな小さな生き物たちに癒されたりしている毎日です。あ、甘いお菓子や美味しいものはもちろんです。





いい感じの照りですね～。おいしかったです



ガスでおいしくクッキング！

「バラ肉照りしょうが風味丼」

厚めの豚肉に片栗粉をまぶしてうまみをぎゅっと閉じ込め、ご飯に合う甘辛タレにしょうがの風味をきかせます。豚バラ肉の脂身も生姜でスッキリ！たっぷりキャベツの千切りと一緒に、おいしいオリジナルどんぶりの出来上がり（＾＾）



●材料（4人前）

豚バラ肉（厚めのもの） 400g
ピーマン 適量
キャベツの千切り 適量



しょうゆ 大さじ2と1/2
酒 大さじ2
みりん 大さじ2
砂糖 大さじ1
生姜のすりおろし 小さじ1

生姜のすりおろし 適量
サラダ油 片栗粉 適宜



●作り方

- 1、豚肉は長さ7～8cmに切る。
- 2、フライパンにサラダ油大さじ2/3を中火で熱し、豚肉の半分量に片栗粉を薄くまぶし、重ならないように広げながら入れる。
- 3、豚肉の両面をそれぞれ2分くらいずつ焼いて取り出し、ペーパータオルでフライパンの余分な脂を拭きとってから残りの豚肉も同様に焼く。
- 4、取り出しておいた豚肉を戻し入れ、たれを加えて、フライパンを揺すりながら全体にかからめる。
- 5、ご飯を持った丼に刻みキャベツ、肉をのせて、最後にすりおろし生姜をトッピング。お好みで焼きピーマンを添えてみましたが、お好きなトッピングをどうぞ ^^

☆☆おすすめ丼ですよ～！

試食した人	今日の料理は★いくつ？（最高★3個）
タッドさん (2.5)	★★★ 減点分は脂肉はあまり食べないので・・
社長 (2.9)	★★★★ うまくて満足な分、食べ過ぎて明日の会議で着るスーツが入るかどうか心配で減点
マックス (3.0)	★★★★ キャベツもピーマンもおいしいね～
ばわふる (2.8)	★★★★ ★みつつあげたいけど、今日の気分が豚バラを欲しがっていない分を減点～
キョウちゃん (3.0)	★★★★ ボリューム満点で最高です！
ケiskeくん (3.0)	★★★★ 簡単に作れるのでおすすめです！



大好きな豚バラ肉のレシピを選んだというのに、なんということでしょう。「今日の気分が豚バラ肉を欲しがっていないから・・」と勝手なことを言い減点したばわふる。普段から脂肉はあまり食べないというタッドさんの減点とは違って、単なる「気分」による減点です。「だから、今日は肉1枚でいいわ・・」と少量のご飯に豚バラ1枚をのせたものの・・・。「やっぱりおいしいから、もう少し食べようっと」と結局追加。ほらね～。やっぱりばわふるは、そうでなくっちゃ ^^

マックスが刻んだ“千切り”ならぬ“百切りキャベツ”。「もっと繊細でないとね～」と文句を言っていたばわふるの横で、「うん！キャベツが甘くてこれがまたいいな・・」とキャベツを絶賛していた社長。調理が上手なケiskeくんは、「片栗粉のおかげで肉に味が絡むんですね」と納得の様子でつぶやき、食のいいキョウちゃんは「ご飯にたどりつけません。盛りすぎました」と言いつつ、見事に完食！遅れて試食に参加したタッドさんの笑顔からもおいしさが伝わります^^どうぞお試しください





社長のちょっと長いコラム

『僕の青春のサウンドトラック』

…続き

4月号でわたしは洋楽を聴き始めたころのことを書きました。その続きを書きます。サイモンとガーファンクルくらいしか知らなかったわたしに洋楽のとびらを開いてくれたのは、転校生の関口君です。

お父さんが銀行に勤めていた関口君の家は常盤町にあり、中学校からの帰りにちよくちよく寄るようになったのです。N君やM君と一緒にいることもありましたが、彼にはお兄さんがいて、ふたりで集めた洋楽のシングル・レコードをたくさん持っていました。小さなモノラル・プレーヤーで、名曲の数々を聴かせてくれたのです。



エルトン・ジョン『フレンズ』『僕の歌は君の歌』『ビートルズ』『レット・イット・ビー』、ジョン・レノン『マザー』『クリスティ』『イエロー・リバー』、M・ネズミス『シルバー・ムーン』、エジソン・ライトハウス『恋の炎』、BS&T『スピニング・ホイール』、R・ストーンズ『ギミニー・シエラター』などなど。これだよ、と聴かせてくれたL・ツェッペリンの『移民の歌』はどこがいいのか分かりませんでした。変な歌だなあ、と思った記憶があります。しかし次のシングル・カット曲『ブラック・ドッグ』は好きでした。この曲と『天国への階段』が収められたツェッペリンの4枚目のアルバムは、のちにすり切れるまで聴くことになりました。

関口君が教えてくれた中で、なかでもわたしを虜にしたミュージシャンは、クリーヴ・デンス・クリアウオーター・リバイバルでした。聴かせてくれたのは『プラウド・メアリー』と『雨を見たかい』だったと思います。憶えやすいメロディにシンブルな演奏、力強いヴォーカルと3分間の曲の中にヒットするための魅力がしっかり詰まっているのがCCRでした。それでいて、ポップスではなくまさにロック。『トラベリン・バンド』『ダウン・オン・ザ・コーナー』『フル・ストンプ・ザ・レイン』『スウィート・ヒット・ハイクー』など大半のヒット・ナンバーはシングルで買いました。いまでも手元にありますよ。

CCRの一番知られた曲は『雨を見たかい』だと思います。

きみは見たことがあるかい？
晴れた日に降り注ぐ雨を
晴れているのに雨が降るんだ
キラキラと降り注ぐんだ

という内容が、当時ベトナム戦争で使われたナパーム弾のことだと広く解釈され、アメリカでは放送禁止歌となりました。作者のJ・フオガティはこれを否定していますが、彼がじつさいにベトナム戦争に徴兵されたこともあり、人々にそう理解されたのでしよう。「俺には金持ちのオヤジはいない。銀のスプーンをくわえて生まれたような奴らが、お前を戦場に送るんだ」と歌ったヒット曲『幸運な息子』は、いまでもカバーされる有名な歌です。と、CCRの歌にはこのような背景があったのです。が、そんなことは何も知らずに、わたしと仲間が『雨を見たかい』をギターでかき鳴らし、口ずさんでいたのです。

(そのうち続く)

さのばわふる日記



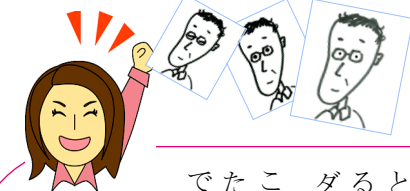
暑かった今年の夏。
パートナーの『さつちゃん』と頑張りました。
そんな私達にグループ名が出来ました。
その名は『コウネンキーズ』。

二人で仕事をしていると異常なくらいの汗。気温が高いことだけが原因ではなく悲しい事に、体にそういう異変が訪れるお年頃なのです。私達の必須アイテムはネッカチーフ。カタカナで表現すると素敵ですが、首タオルです。これも普通のタオルではダメなのです。ガーゼが一番。

作業の途中でも絞れるくらい汗。当然、着ている服もベチョベチョ。浦河なのに暑い夏でした。

そんなある日の作業後のおはなし：

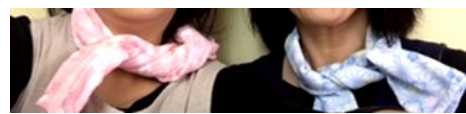
「社長！大変です。労災発生です。」何事かと驚く社長。「お見せする事は出来ませんが、私のお腹が大変です。しゃがんで作業をしていたため、お腹が圧迫され水ぶくれが出来ています！お腹がケガしています。」それを聞いた社長は「自分の体に合ったズボンを穿いて下さい！労災は認められません。」と呆れ顔。そうなんです。ウエストのきついチノパンを穿いていた私。作業中からお腹のぜい肉が「苦しいよ！苦しいよ！」と訴えていたのです。仕事をしながら、「失敗したのびのびパンツかウエストゴムにするべきだった」と呟っていた私。当然、作業が原因ではなく、太っている私が悪い。今年の健康診断は十一月…。やっばり、ダイエット開始しないとな。



この夏は、こんな事もありました。台風のとに社長が失踪！でも、社長がいけない事に誰も気づかず。どこのだなにか分からないのですが、わざわざ社長を届けてくれました。ありがとうございます。社長、おかげさまで！



この中の一枚の社長が失踪!!



新調した「コウネンキーズ」愛用ネッカチーフ

発行 株式会社マルセイ
灯油・プロパンガス販売・機器修理
廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業

冬季期間 (10月～3月) 定休日：日曜・祝祭日 営業時間 8:30～6:00 土曜3:00

編集 おはなし家 (マックス) 発行部数 3500部
【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com
【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してください
〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3
TEL 0146-22-5123